1.　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成19年8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	2370401164		
法人名	社会福祉法人 愛生福祉会		
事業所名	グループホーム 中小田井		
所在地	名古屋市区中小田井五丁目240番地 （電　話）052-509-7717		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年7月6日	評価確定日	平成19年8月27日

【情報提供票より】（平成19年6月15日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　16年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	17 人	常勤　10人，　非常勤　7人，　常勤換算　8人	

（２）建物概要

建物構造	鉄骨　造り			
	2 階建ての　1～2　階部分			

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	51,000　円		その他の経費(月額)	12,000　円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	300　円	昼食	450　円
	夕食	450　円	おやつ	100　円
	または1日当たり　円			

（４）利用者の概要（平成19年6月15日現在　）

利用者人数		17 名	男性　3 名	女性	14 名
要介護１		4名	要介護２	5名	
要介護３		5名	要介護４	3名	
要介護５		0名	要支援２	0名	
年齢	平均	77.9 歳	最低　55 歳	最高	93 歳
協力医療機関名	康友クリニック・鈴木歯科・上飯田病院				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人、愛生福祉会の幅広いネットワークを持つグループホームである。「自立支援」を重視し、職員は手を出しすぎず、入居者ができることは自分の力でできるよう支援している。時間的制限は少なく、散歩や買い物など一人ひとりの要望に応えている。毎日入浴している方も多い。食事制限はせず、毎日の散歩や体操など、できるだけ外出し身体を動かしている。家庭らしい環境づくりに取り組んでおり、テーブルに育てた花を飾ったり、食材の買い出しから、調理、片付けを入居者と職員が一緒に行っている。各ユニットには、共同作品や個人の作品がたくさん飾られている。家族の訪問も多く、家族アンケートの結果からも良好な関係がうかがえる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	ホームの理念は1階事務所内に掲示されてある。職員の継続研修は、法人内研修等があり、外部研修には月1回職員が順番に参加できるように努めている。地域との関わりは、手作りおやつ等をお世話になっている方に届けたり、ホームの盆踊りに招待している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価は職員全員で取り組んだ。職員全員が評価書類に目を通し、全員が評価票を提出し、それを管理者がとりまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	2カ月に1度開催しており、会議の目的やグループホーム中小田井の「考え方」については、理解してもらっている。メンバーから、日常的に外出支援をしているので、地域の人が「認知症」を認識してくれる機会になっているため、今後も継続していってほしいという意見をもらった。反面、知られたくないという家族の思いもあり、入居者や家族の立場を考えながら、地域の一員として生活できるよう取り組みたいと考えている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族の率直な意見や不満、苦情を前向きに活かすため、各ユニット毎に意見・不満・苦情用紙がある。家族は、直接職員に話しており、普段のコミュニケーションを大切にし、言いやすい環境づくりに努めている。意見等があった場合は、真摯に受け止め、会議で話し合っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	毎週水曜日は喫茶の日で、近所の喫茶店に皆で出かけている。ホームの盆踊りには喫茶店の方も参加して下さった。自治会に加入していて、講演会や敬老会の案内が回覧される。皆で作った「たこやき」等を近所の方に届けたりすることもある。地域の納涼祭の手伝いには、職員が中心であるが参加している。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は『共同生活の中で「その人らしさ」を大切にし、家庭的で一人ひとりの人格や尊厳を尊重し、高齢者の潜在能力を発揮し、地域の一員として穏やかな自立した生活をしていただくように支援する』である。グループホームの目的のもと、4月にホーム独自の理念をつくりあげた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は1階事務所に掲示され、職員にも渡している。毎朝の申し送りや毎月の会議の中で、日常のケアの場面で行動が理念に反していないか、具体的な例を出しながら振り返っている。また、各フロアリーダーが職員の行動や状況に応じて、助言している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、自治会に加入していて、講演会や敬老会の案内が回覧される。ホームの盆踊りには、地域でお世話になっている方を招待している。皆で作ったおやつ等を近所の方に届けたりすることもある。地域の納涼祭の手伝いには、職員が中心であるが参加している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価は職員全員で取り組んだ。前回の評価で見出された課題については、話し合い、運営推進会議でも報告している。理念を1階事務所に掲示したり、地域と関わりが少しずつできている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは、入居者、家族、民生委員、福祉関係者であり、会議は2カ月に1度開いている。今後は、自治会の方もメンバーに入る予定である。会議で出た率直な意見など必要な事を、管理者は会議で職員に伝えている。運営推進会議を通し、少しづつサービス向上に繋がってきている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームの基準上の事や、新たに行う事の確認では、市に相談し、適正な介護サービス提供に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族などの安心を確保し、信頼や協力関係を築くために、来訪時に積極的に報告している。変化ある場合は随時伝えている。1階では、ホーム便りへの写真掲載も家族の許可を得て、年4回発行している。2階では手紙で入居者の近況について情報提供を行なっている。来訪時には、アルバムも見ていただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の率直な意見や不満、苦情を前向きに活かすため、各ユニット毎に意見・不満・苦情用紙がある。家族は、直接職員に話しており、普段のコミュニケーションを大切にし、言いやすい環境づくりに努めている。意見等があった場合は、真摯に受け止め、会議で話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は少ない。異動時などは前々から徐々に入居者に伝え、送別会などを行い入居者への理解に努めている。新しい職員は、入居者に顔を覚えてもらうよう挨拶を積極的に行い、馴染みの関係を築けるよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修は1～2週間実施される。中途採用の場合は、1カ月間経験者が付き添う現場研修を行っている。夜勤も2回付き添う。法人内研修等があり、当日勤務者以外は参加する。外部研修は月1回ペースで職員が順番に参加できるように努めている。参加者は報告書を書き、皆に報告している。今後、ホーム内研修の実施を予定している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での会議（ケアマネ会議、栄養士会議等）には、管理者や職員が参加している。今後、法人内のグループホームとの交流の機会を考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の方には、必ず面接し、家族や本人に家族の状況や生活歴など聞いている。体験入居は行っていないが、見学に来てもらっている。おやつやレクリエーションの時間等を一緒に過ごしてもらうこともある。家族と連携を図りながら、入居者の馴染みの物を部屋に置き、職員は声かけ、コミュニケーションを取りながら、ホームに馴染んでもらえるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	縫い物や畑仕事、買い物や洗濯物の干し方など、家事について、職員は入居者から教えてもらう事も多い。入居者の思いに寄り添うことを基本とし、その人らしい生活を継続してもらえうよう支援している。職員が入居者からいたわりの言葉をかけてもらう事もある。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接表や申し送りノートを活用し、職員会議で話し合い、入居者の思いや意向の把握と共有に努めている。職員は、入居者の日々の行動や表情など、関りの中で察知する能力を身につけるよう努力している。入居者と1日1回は、ゆっくり話す時間を持ち、希望を聞くようにしている。家族との会話で新たな認識を得る事もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	会議で話し合い、計画作成担当者が中心に介護計画を作成している。入居者には担当職員がおり、担当者の意見も介護計画に反映される。入居者本人からは、なかなか要望がでてこないこともあることから、日常の会話の中から意向を汲み取っている。家族の意向も日頃から聞いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回会議の中で入居者の状態について確認をしている。介護計画の期間に応じて見直しを実施している。入居者の状態に変化があった場合は、随時、家族に報告し介護計画を変更している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を受けており、週1回看護師が訪問し日常的な健康管理を行っている。24時間連絡対応が可能である。病院への通院介助は原則家族が付き添いをすることになっている。家族が難しい場合はホームで対応している。今後もできる限りは対応していきたいと考えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関が、かかりつけ医となっており、週1回の往診がある。本人の希望でリハビリに通っている人もおり、付き添いは原則家族の方にお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療連携対応及び重度化対応指針同意書」について入居時に家族に説明し同意をとっている。常時医療が必要になった場合や、寝たきりになった場合等については、ホームで対応するのに難しい面もある。状況に応じて、本人、家族、かかりつけ医と相談しながら対応していく方針である。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけにより、入居者のプライドやプライバシーを傷つけないよう、日常的に管理者から話がされている。個人情報の利用目的についての文書が、1階の事務所前に掲示されている。職員には、入職時に説明し契約書を取っている。記録については、入居者の目に付かない場所で書いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者から希望がでた場合は、なるべく沿うように心がけている。食事の時間をずらすことが可能である。行事を行う時には、入居者に希望を聞いている。生活ということを重視し、入居者はゆったりとした時間の流れの中で、レクリエーションをしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
⑵ その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、担当職員が作成し法人の管理栄養士にチェックしてもらっている。入居者の好き嫌いに対応しており、食事づくりには、入居者の希望に応じて参加してもらっている。食材は毎日スーパーに買いに行っており、入居者も一緒に出かけている。誕生日には、本人の好きな物を聞いて提供していることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であり、基本的に午後からの時間で対応している。ほぼ毎日入っている。自立支援を重視し、入居者が自分でできることには職員は手を出さず見守りや声かけをしている。入浴剤や季節に合わせ菖蒲湯、ゆず湯など、入浴を楽しんでもらえるよう取り組んでいる。拒否をされる方にはタイミングを考えながら声かけをしている。		
⑶ その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年1回法人の作品展があり、ユニット毎に制作し毎年出展している。作品のテーマは入居者と職員が考えており、リビングや廊下に飾られている。料理や手芸、菜園、外出等入居者の得意なことや好きなことを活かしてもらえる環境づくりに努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買物に毎日行っており、入居者も一緒にでかけている。散歩には毎日でかけており、入居者の希望に応じて時間をつくり個別に対応している。毎週水曜日は喫茶店の日としている。		
⑷ 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関に施錠はしていない。玄関の扉を開けると音が鳴り、人の出入りを確認することができる。帰宅願望が強い方が一人で外出する際には、職員がさりげなく付き添い安全に配慮しながら、個人の尊重を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を実施している。地域への働きかけについては、まず、ホームのことや場所を認識してもらえるよう働きかけをしている。非常用の飲料水は倉庫に保管している。また、食料については近くにある同法人の施設で用意している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は1日１ℓ～2ℓを目安にしており、3食の他に10時、おやつ、入浴後、夜間等に提供している。医師の指示により水分制限がある人もいる。毎回チェックし記録している。食事の制限はしない方針であり、量や盛り付け等で工夫し、体操を毎朝実施したり、散歩にでかけたりと身体を動かすよう取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子でも対応できる広いトイレが1つ、その他に3つトイレが設置されている。換気や温度管理は職員によって行われており、入居者の作品や共同作品が要所に展示されている。中庭には花水木の樹があり、テーブルや椅子が置かれている。庭には季節の花がたくさん植えられており、入居者が水やりや世話をしており、食堂のテーブルに育てた花が飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	防災用カーテンはホームで用意している。その他は入居者の馴染みの物を持ってきてもらっており、茶碗やお箸などの食器類や、テレビ、タンス、家族の写真等が置かれていた。お酒については、本人の同意を得て、ホームで管理をするようにしている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。